



# 全消協ニュース

全国消防職員協議会発行／編集責任者 小野英一／東京都千代田区六番町1 自治労会館／☎(03) 3263-0271  
ホームページアドレス／<http://zensyokyo.jp/>

皆さま、あけましておめでとーございます  
2022年の年頭にあたり、  
謹んで新年のご挨拶を申し上げます

2019年12月に最初の症例が確認されて以来、現在もその勢いを増している新型コロナウイルス感染症は、年始以降、日本国内においても変異株の感染が多数確認され、第5波までの勢いを凌駕する速さで広がっており、救急搬送困難事案も日々増加してきています。今年も昨年引き続きいて対策に追われる一年になるうかと思いますが、全消協会員の皆さまには、ご自身とご家族を守り、また住民の安心安全を守りながら、健やかな日々を過ごしていただきたく思い

ます。そのために、各単協・各道府県・各ブロック・全消協が一丸となり、感染防止・拡大阻止に努めながらコロナ禍に於ける消協活動を皆さんとともに模索し住民サービスの向上と職場環境の改善に繋げていきたいと願っています。

先行き不安な社会情勢の中、公務員の定年延長制度をはじめとする解決すべき問題が山積していますが、まずはコロナ禍で不安を抱える住民と直に接する職種であり、住民の負託に応える立場にあることを自覚し、そして現場に赴かない管理職にも自覚してもらうよう働きかけようではありませんか。協議会のスローガンとして、しばしば引用される言葉に「みんなは一人のために、一人はみんなのために」があります。わたしは、この言葉に次の言葉を付け加えたいと思います。

「一般職員は住民のために、管理職員は住民と一般職員のために」  
青臭い言葉と受け取られるかもしれませんが、義務を遂行しなければ権利を主張できないと私は考えています。

義務を遂行するにあたり法的に不備があれば、先人の方々が協力関係を築いてくださった自治労や消防政策議員懇談会等のご支援を受けながら、政府に対し根気強く改善を求めてまいります。

今後も全国消防職員協議会が消防行政の持続的発展と社会貢献の一翼を担えるよう努力してまいりますので、会員の皆さまの力強いご支援をお願い申し上げます。



2022年1月1日

全国消防職員協議会

会長 須藤 洋典



# 全消協第3回ユースStep Upセミナー

2021年10月1日(金)、全消協第3回ユースStep Upセミナーが開催されました。今年度はコロナ禍により、ウェブのみでの開催となりました。

本セミナーは、第5期ユース部・第6期ユース部・女性連絡会が企画運営を行い、全国のユース・女性会員68人が参加しました。冒頭、小野副会長より、「コロナ禍により、ウェブ開催という限られた環境ではあるが、各講座で学び、ユース世代で交流を深め、今後の協議会活動に繋げてほしい」とのあいさつが述べられました。セミナーでは、ユース世代が



副会長 小野英一



「協議会活動に必要な基礎知識を学習する場ですが、その内容は「組織の成り立ち・男女平等」「メンタルヘルス」「労働安全衛生」「賃金・労働条件」「LGBT」など多岐にわたり、消防職務そのものに結び付く事項も多く、参加者は熱心に講義を聴講していました。企画運営を行った永菜ユース部代表からは、「コロナ禍によりウェブ開催を余儀なくされたものの、各ユース幹事、ならびに女性連絡会との連携により問題なく執り行うことができた。今後も参加者の意見を反映しつつ、より良い内容を模索しながら、定期的に開催し

ていきたい」とのあいさつがありました。セミナーの最後では、小野副会長が「消防職場では、解決すべき問題が山積しているが、女性・ユース世代から積極的に問題を提起し、職場の全員で協力しあえば、解決できることは多い。今回、学習した内容を活かすことで、皆さんの職場環境が改善され、誇りとやりがいをもって仕事に望む環境が整うことを願っている。今後も、全消協は消防職員の地位向上と職場環境改善の一助になれるよう活動するだけでなく、女性・ユース世代の発展に全力を尽くす」と総括し、講座が締めくくられました。

参加したユース・女性会員からは、「今回のセミナー内容を参考に新人職員の勉強会を組み立てていきたい」という声や、「LGBTに関して考える機会が少なかったため、今回の講座は興味深かった。今後さらに学んでいきたい」という意見、「すべてウェブ開催となつてしまったが、それにより都合調整が可能となり、参加することができた。対面より交流は深めにくいものの、今回のような形式でも学習できる場合は定期的にほしい」などの感想が寄せられました。

## 半鐘のそだま

あけましておめでとうございます。私は昨年1月にブロック幹事代理の依頼を受け、はや1年が経過します。まだまだ慣れないことも多いですが、今年も初心を忘れずに頑張りたいと思います。

さて、皆さんの働く原動力は何でしょうか。

家族や友人のため、自分の生活を豊かにするため、純粋に消防活動を実施することで市民のために貢献するため、など個々でさまざまと考えます。違いはあれども、そういった個人の思いが、消防活動のモチベーションに繋がっています。

しかしながら、その原動力は諸刃の剣であり、働くことに無理をしすぎると、自分の身体を壊すことに繋がります。また、私たちは消防職員であり、国民の生命、身体および財産を守ることを仕事として収入を得ています。悲惨な災害現場を目の当たりにしても使命を全うしようとするでしょう。非常に大きな緊張とストレスを抱える仕事です。

地方公務員の疾病分類別長期病休者率(10万人率)は心疾患や脳疾患などの疾病が毎年上昇傾向にあり、2020年度は15年前と比べて約2.1倍の精神および行動の障害が発生しているとの統計が出ています。日々、災害に出動し、そのストレスとたたかっている職員が、休憩も満足に取れない環境である中、生活施設が不十分では慢性的に疲れがとれないため、人員増強や生活施設の改善が必要です。あるいは、日々のストレスから職員のメンタルに影響が出るのならば、セルフコントロールをする方法について学ぶ機会を設けたり、職場全体でラインケアを行える環境を整える必要があります。

今回の記事から改めて労働安全衛生について考え、消防職務がより良いものになる機会になれば幸いです。

櫻木 圭(関東ブロック幹事)

### 最新の全消協活動を配信中です ぜひアクセスや「いいね!」をお願いします。

全消協  
ホームページ



全消協  
Facebook



全消協  
Twitter



ユース部  
Facebook



女性連絡会  
Facebook



女性連絡会  
Instagram



2021年  
11月19日

# PSII-JC男女平等セミナーを オンラインで開催

全消協からは、永楽ユース代表 佐々木幹事、森崎幹事、北川幹事 吉永女性連絡会代表、朽木女性連絡会副代表、川崎瑠美(佐賀広域消協)、秀島沙弥香(佐賀広域消協)が参加しました。

セミナーにはPSII-JC加盟組織から113人が参加。はじめに、青木真理子自治労副委員長(PSII-JC女性委員会議長/自治労)から開会挨拶がありました。その後、白波瀬佐和子教授(東京大学人文社会系研究科)より『新型コロナウィルス感染症が世界の女性へ及ぼした影響』、林和明講師(公益財団法人21世紀職業財団客員講師)より『職場における暴力とハラスメントがない職場づくり研修』をテーマにした

講演があり、最後に、PSII-JCユースネットワーク委員が作成した動画『LGBT+みんななで学ぶ講座』が上映されました。全消協参加者からは、「コロナ禍によって休業を余儀なくされた人々の実態が学習できた。また、ハラスメントについても認識の違いがあったことを知った。とくに、動画『LGBT+みんななで学ぶ講座』には興味を惹かれ、理解しているつもりでも、知らなかったことが多く、各ブロックでの研修会において、今回参加していない全消協会員に対して、内容を共有する必要がありますがあることを感じた。今回のセミナーを受講し、自分の理解が足りない部分があることがわかり、今後も継続的に学びたいと

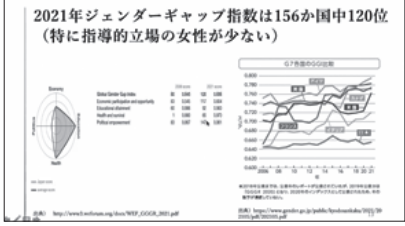
いう意欲に繋がった」という声や、「救急現場をはじめとする医療現場での新型コロナウィルスの影響については、これまでも耳にする機会があったが、今回のセミナーで、多様な職場における影響も知ることができた。同居者がいる女性の自殺者数が増えたというデータは、日本が抱えるDV等の問題の根深さと、新型コロナウィルスの及ぼす影響の恐ろしさを考えさせられた。また、ハラスメントは誰しもが被害者にも、加害者にもなり得るということを知った。時代の変化とともに、『多様性』とは何かを考える機会が増えた。今こそ、各々が自分事と捉え、積極的に情報を得て、ハラスメントと向き合っていく必要があると感じた。

各個人の小さな変化がなければ、全体の大きな変化には繋がらないと考へた。今後は、本セミナーの内容を身近な人たちに伝えることから始め、ハラスメントに

ついて考える場を設けていきたい」という意見。また、『新型コロナウィルス感染症が世界の女性へ及ぼした影響』の講義において、日本は世界と比べると、コロナ禍の影響によりジェンダー格差がさらに大きくなっており、社会制度に変革が求められていることを知った。『職場における暴力とハラスメントがない職場作り研修』の講義では、ハラスメントの種類も多様化しており、誰もが意図せず加害者や、被害者になり得るため、ハラスメントが起こらない環境づくりだけでなく、自分自身も加害者になり得るかもしれないという意識を持つべきだと学んだ。今回のセミナーを通し、ジェンダー格差やハラスメントがなくなるといえる社会になつてほしい。また、自分が知り得なかったことを学ぶことができ、良い経験となった」という感想。そして『コロナ禍となり、情報通信関連分野は向上し仕事にも変化がもたらされた一方で、問題点が多数あることに改めて気付かされ、さらにそれは以前から続く問題の露呈であったと学習できた。また、コロナ禍での休園・休校は、就労者全体、とくに母親就労者に負担が大きいこ

とを知った。今後は柔軟さが鍵であり、労働時間や労働場所など、働き方を見直すことで性別に関わらず個人が尊重され、全員が生活しやすい世の中になつていくべきだと感じた。そのために、まずは自分自身の知見を深め、問題を知ることから始めていきたいと考へた。また、『職場における暴力とハラスメントがない職場づくり研修』の講演の中で、『周囲の者がハラスメントだろう、と判断した行為も、対象者がハラスメントと感じない場合は、ハラスメントの被害者はいないのか?』という質問に対し、『その場合の被害者は組織である』という見解があった。被害者がハラスメントに感じなくとも、行為者がいることで組織全体は傷を負い、ハラスメントが横行する組織へとなり得ると考へた。講演内では『無関心な傍観者』という言葉が繰り返し使われており、普段から周囲に関心を持つことの必要性を強く感じた。動画『LGBT+みんななで学ぶ講座』では、ゲストの実体験から、『LGBT+の姿が可視化されることで、社会への意識付けとなる』ことや、『未来はLGBT+という言葉がなくなればいい』という話がされた。活動を続けていく大切さや、さまざまな人々との繋がりを持つという点は消協活動に通ずるものがあった。今回のセミナーをフィードバックしていきたいと思

う」といった所感が寄せられました。その中でも多かったものが、『今回のセミナーを他の会員へ伝えていきたい』という内容でした。本セミナーを受講することで、消防のみならず、社会全体の情勢を広く知ることが出来ます。諸課題を知り、気付くことで、考え方も深まり、少しずつ改善していくことで、さらなる諸課題に結び付き、社会全体の改善に結び付きます。また、その中で、改めて構成組織の繋がりの重要性を感じます。今後は構成組織との連携を深めながら、さらなる消防職場の改善に努めていきたいと思います。



2021年ジェンダーギャップ指数は156か国中120位 (特に指導的立場の女性が少ない)

## 次回、全消協の予定

2022年2月28日 単協代表者会議

ウェブ開催

2022年3月8日 全消協第4回ユースStep Upセミナー

第1部・第2部ともにウェブ開催



# 【LGBT+】

## みんなで学ぶ講座

PSI-JCユースネットワークは、LGBT+について知りたい、理解したい！という思いから、当事者であるNPO法人グッド・エイジング・エールズ代表の松中権さん、東京レインボープライド共同代表理事の杉山文野さんをゲストにお招きし、分野ごとに5本のインタビュー動画を作成しました。YouTubeでスキマ時間にさくっとチェックできます。是非、みなさんの組合や職場の学習会などで活用して下さい。

「LGBTとひとまとめにされることについてどう思うか？」  
 「家族や身近な人にカミングアウトしたのはいつ？」  
 「トイレはどうしているの？」  
 ユースメンバーの率直な質問に、2人の答えは—

- 入門編
  - 生活編
  - カミングアウト編
  - 社会・法律編
  - 組合・職場編
- おまけ動画もあるよ♪



松中権さん
杉山文野さん

YouTube

あの2人がNGなしで語る

動画の視聴はこちらから

<https://sites.google.com/view/psi-jc/>

### LGBT+ (エルジービーティープラス) とは？

- Lesbian (レズビアン、女性同性愛者)
  - Gay (ゲイ、男性同性愛者)
  - Bisexual (バイセクシュアル、両性愛者)
  - Transgender (トランスジェンダー、性自認が出生時に割り当てられた性別とは異なる人)
- の頭文字をとった言葉で、性的マイノリティ (性的少数者) を表す総称のひとつ。  
 「+」は無限のパターンを表す。



立憲民主党参議院比例第15総支部長



## 第26回参議院全国比例区選挙 自治労組織内候補予定者

### 鬼木まこと

プロフィール

LINE公式アカウントの「友だち」になってください!



#### ■ 略 歴

- |       |  |       |                       |
|-------|--|-------|-----------------------|
| 1963年 | 福岡県筑紫野市生まれ   | 1996年 | 福岡県職員労働組合 筑紫支部長       |
| 1976年 | 福岡県筑紫野市立二日市小学校卒業   | 2005年 | 福岡県職員労働組合 執行委員 (労安部長) |
| 1979年 | 福岡県筑紫野市立二日市中学校卒業   | 2006年 | 福岡県職員労働組合 副委員長        |
| 1982年 | 福岡県立筑紫高等学校卒業後福岡県庁入職<br>県税事務所 (徴収等)、保健所 (環境・公衆衛生)、総務事務センター (福利厚生) などを担当 | 2010年 | 福岡県職員労働組合 書記長         |
| 1989年 | 福岡県職員労働組合 青年部長 自治労福岡県本部 青年部書記長   | 2012年 | 福岡県職員労働組合 委員長         |
|       |  | 2014年 | 自治労中央本部 組織対策局長        |
|       |  | 2015年 | 自治労中央本部 総合公共民間局長      |
|       |  | 2019年 | 自治労中央本部 書記長           |
|       |  | 2021年 | 立憲民主党参議院比例第15総支部長     |

#### ■ 好きな言葉

「一人はみんなのために、みんなは一人のために」  
 大好きなラグビーの精神を表した言葉です。まさに私の活動の基礎になっています。  
 「努力、感謝、笑顔」

私の好きなグループの合言葉です。明るい気持ちになり、とても好きです。

#### ■ 性格・人柄

明るい! 情に厚い。食いしん坊で甘党。お酒は強くないです。

#### ■ 趣味

舞台・芝居を観る、落語を聴く、スポーツ観戦 (とくにラグビー)

#### ■ 好きな食べ物

カレーライス、オムライス、ハンバーグ、スイーツ